

授 業 科 目 名	栄 養 学	担 当 教 員	後 藤 香 織
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	栄養学とは	エネルギーとは？代謝とは？栄養とは？	人体の構造と機能
2	代謝と栄養	糖代謝	10 栄養摂取の機構
3	〃	脂質代謝	E代謝
4	〃	アミノ酸代謝	a) 栄養所要量
5	〃	タンパク質合成	b) 基礎代謝
6	〃	セントラルドグマ	c) 炭水化物の代謝
7	病気と栄養	電解質代謝、ビタミン、ミネラル	d) 脂肪の代謝
8	〃	栄養所要量の計算、消化器疾患(I)	e) たんぱく質の代謝
9	〃	消化器疾患(II)	f) 核酸の代謝
10	〃	消化器疾患(III)	g) ビタミン・ミネラル
11	〃	腎疾患(I)	
12	〃	腎疾患(II)	
13	〃	内分泌、代謝疾患(I)	
14	〃	内分泌、代謝疾患(II)、循環器疾患	
15	まとめ	血液、感染症、アレルギー、骨、関節疾患 演習 他	
	テキスト	「新選 食品成分表」(実教出版) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」(文光堂) 「新版看護栄養学全書 栄養学」(メヂカルフレンド社)	
	参考書	①「ナースのための生化学. 栄養学」(南山堂) ②「臨床栄養学 食事療法の理論」(医歯薬出版株式会社) ③「看護栄養学」(医歯薬出版株式会社)	

授 業 科 目 名	カウ ン セ リ ン グ 論	担 当 教 員	北 川 公 路
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2	患者とのコミュニケーション	医療者と患者のコミュニケーション 言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション 患者の訴え方：その聴き方と応え方 患者と家族への援助 患者間の関係 ピアカウンセリング	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション
3 ~ 5	カウンセリングとは何か	カウンセリングの特徴 カウンセラーの役割	
6 ~ 9	カウンセリングの理論と方法(I)	クライアント中心療法	
10 ~ 12	カウンセリングの理論と方法(II)	行動カウンセリング 認知行動カウンセリング 精神分析的アプローチ	
13 ~ 14	カウンセリングと心理テスト	カウンセリングにおける心理テストの意義と役割 心理テストの種類 質問紙による人間理解	
15	事例研究	看護の面接事例 各回、実習(ロールプレイ、紙上応答訓練)を行う	
	テキスト	「看護に活かす 積極的傾聴法」 (メディカ出版)	
	参考書		

授 業 科 目 名	社会保障制度と生活者の健康Ⅲ	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	法規	法規の概念、法規の種類、衛生法規	【必修問題】 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う 4 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 5 保健師助産師看護師法 A. 看護職員の業務と義務 a) 保健師助産師看護師の業務 b) 看護師に禁止されている業務 c) 守秘義務 d) 教務従事者届 B. 看護職員 a) 養成制度 b) 就業状況 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 4 1. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 B. 保健師助産師看護師法 A. 医療サービスの供給体制 h) 医療過誤 C. 看護職と関係法規 i) 理学療法士及び作業療法士法 e) 医師法 a) 医療法・薬事法の理念 b) 医療施設の充実 c) 救急医療の充実 d) 診療記録・情報公開 e) 薬局の種類と機能 f) 医薬品と医療用具の取扱い g) 毒薬・劇薬の取扱い 目標 3 4. 保健活動 A. 地域保健 a) 地域保健法の理念と指針 b) 健康日本 21 c) 健康増進法 d) 市町村保健センター e) 保健所 目標 4. 1. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 C 看護職と関係法規 a) 労働基準法 b) 労働条件の原則 c) 育児・介護休業法 d) 看護師等の人材確保の促進に関する法律
2	医事法規 (1)	保健師助産師看護師法①	
3	医事法規 (2)	保健師助産師看護師法②	
4	医事法規 (3)	保健師助産師看護師法③	
5	医事法規 (4)	医療過誤と法的責任	
6	医事法規 (5)	理学療法士及び作業療法士法	
7	医事法規 (6)	医師法	
8	医事法規 (7)	医療法①	
9	医事法規 (8)	医療法②	
10	医事法規 (9)	医療法③	
11	薬事法規 (1)	薬事法①	
12	薬事法規 (2)	薬事法②	
13	保健衛生法規 (1)	地域保健法、健康増進法	
14	労働法規 (1)	労働基準法、労働条件	
15	労働法規 (2)	育児・介護休業法、看護師等の人材確保の促進に関する法律	
テキスト		プリントによる。	
参考書		「健康政策六法 最新年度版」医療法制研究会（中央法規） 「社会福祉六法 最新年度版」社会福祉法規研究会監修（新日本法規）	

授 業 科 目 名	英語Ⅱ(オーラルイングリッシュ)	担 当 教 員	柴 山 森 二 郎
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	Introduction	年間授業の説明	
2	Emergency English	基礎的な会話の対応表現の学習と練習	
3	Where are you from? Could you tell me	自己紹介の時の基本的な質問と応え方	
4	your address, please? Review	患者の基本情報を聞く。丁寧な質問の仕方	
5	Outpatient clinic	住所、電話番号、数字の読みかた	
6	Giving directions	外来患者に対する受け付けの練習	
7	Asking about	病院内の場所を説明する練習	
8	symptoms	症状の尋ね方	
9	Where does it hurt?	症状と兆候の表現の練習	
10	Review	痛みについて尋ねる(1)	
11	Medical history	痛みについて尋ねる(2) 人体各部の名称	
12	Review	医療単語の復習	
13	Examination	既往歴について尋ねる(1)	
14	Semi-introduction	前期授業の復習とまとめ	
15	Medical history	前期末試験	
16	Medication	後期授業の説明	
17		既往歴について尋ねる(2) 病名の英語	
18	Medical tests	薬の服用について指示する	
19		頻度、薬の種類などの表現	
20	Surgery	検査の支持をする	
21		検査の言い方、時間の表現の練習	
22	Review	手術前のオリエンテーション(1)	
23	After surgery	手術前のオリエンテーション(2)	
24		復習と応用	
25	Culture and	入院患者への対応(1)	
	Religion	入院患者への対応(2)	
26	Review	外国人患者に文化や宗教を尋ねる(1)	
27	Review	外国人患者に文化や宗教を尋ねる(2)	
28	Examination	会話練習	
29		会話練習	
30		学年末試験	
	テキスト	「クリスティーンのやさしい看護英会話」知念クリスティーン、上滝真紀江著(医学書院)、プリント	
	参考書		

授 業 科 目 名	英 語 III (外 書 講 読)	担 当 教 員	柴 山 森 二 郎
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	Introduction	年間授業の説明	
2	Whose Fault?	Case 1 を読む。専門英語の語彙と語法。	
3	Autopsy	Case 2 を読む。専門英語の語彙と語法。	
4	Diabetes	Case 3 を読む。専門英語の語彙と語法。	
5	Ranen	Case 4 を読む。専門英語の語彙と語法。	
6	Review/Discussion	今までの復習とまとめ	
7	Arthur Brown	Case 1 を読む。専門英語の語彙と語法。	
8	Marcus	Case 2 を読む。専門英語の語彙と語法。	
9	Betty' s Funeral	Case 3 を読む。専門英語の語彙と語法。	
10	Review/Discussion	今までの復習とまとめ	
11	Mr. Peters/Anna	Case 1 ・ 2 を読む。専門英語の語彙と語法。	
12	Al Cann	Case 3 を読む。専門英語の語彙と語法。	
13	Mrs. Simon	Case 4 を読む。専門英語の語彙と語法。	
14	Review/Discussion	今までの復習とまとめ	
15	Examination	前期末試験	
16	Al Kendall	Case 1 を読む。専門英語の語彙と語法。	
17	Smart Dentist	Case 2 を読む。専門英語の語彙と語法。	
18	My Mother	Case 3 を読む。専門英語の語彙と語法。	
19	Review/Discussion	今までの復習とまとめ	
20	Lucy	Case 1 を読む。専門英語の語彙と語法。	
21	Larry Larson	Case 2 を読む。専門英語の語彙と語法。	
22	Barry/ Mrs. Dove	Case 1 ・ 2 を読む。専門英語の語彙と語法。	
23	Mrs. Johnston	Case 3 を読む。専門英語の語彙と語法。	
24	Mrs. Johnston	続きを読む。専門英語の語彙と語法。	
25	Review/Discussion	今までの復習とまとめ	
26	Emergency Room	ER について読む。専門英語の語彙と語法。	
27	Emergency Room	続きを読む。専門英語の語彙と語法。	
28	Emergency Room	続きを読む。専門英語の語彙と語法。	
29	Review/Discussion	今までの復習とまとめ	
30	Examination	学年末試験	
	テキスト	「The Doctor Tells the Truth」 Edward E. Rosenbaum 著 (南雲堂) 「医学英語の基本用語と表現」 藤枝博壽他著 (メジカルレビュー社)	
	参考書		

授 業 科 目 名	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	担 当 教 員	武 田 淳 史
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	循環器疾患(1)	心臓の機能と形態の基礎	目標 3 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う 2 生命維持機能の障害 C 循環機能の障害 a) 出生前の異常による心機能の障害 b) 後天的に心機能の障害を引き起こす疾患 c) 心筋の酸素欠乏による心機能の障害 d) 心機能の低下をきたした状態 e) 心臓のリズム障害 f) 血液の供給を障害する血管の疾患 g) 血圧の異常 h) 循環機能の変化を伴う体温の上昇 目標 3-2 B 呼吸機能の障害 a) 感染による気道・肺の炎症 b) 気管支喘息 c) 肺の腫瘍 d) 急性および慢性的呼吸不全 e) 呼吸機能の障害による循環機能への影響 目標 3 3 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害 D 排泄機能の障害 a) 腎・尿路の炎症 b) 腎・尿路の腫瘍 c) 腎・尿路の通過障害 目標 3 6 生命の連続性をつくりだす機能の障害 A 生殖機能をつかさどる器官の障害 a) 思春期における性的成熟の障害 b) 加齢による生殖機能や性ホルモンの変化 c) 女性生殖器の疾患 d) 乳腺の疾患 目標 3 4 内部環境調節機能の障害 A 内分泌機能の障害 a) 内分泌機能の低下 b) 内分泌機能の亢進 c) 内分泌機能の炎症 d) 内分泌機能の腫瘍
2	循環器疾患(2)	先天性心疾患について	
3	循環器疾患(3)	心筋炎、心筋症について	
4	循環器疾患(4)	弁膜疾患、虚血性心疾患について	
5	循環器疾患(4)	血管疾患、高血圧症について	
6	呼吸器疾患(1)	気管、肺の構造、呼吸器感染症について	
7	呼吸器疾患(2)	閉塞性、拘束性肺疾患の総論	
8	呼吸器疾患(3)	気管支拡張症、塵肺、胸膜疾患について	
9	呼吸器疾患(4)	肺腫瘍とは	
10	腎臓疾患(1)	腎臓の構造と機能、尿路感染症について	
11	腎臓疾患(2)	腎炎、腎癌について	
12	泌尿器疾患	泌尿器関連腫瘍、炎症について	
13	生殖器疾患	奇形、婦人科疾患について	
14	内分泌疾患(1)	ホルモンの役割、下垂体疾患について	
15	内分泌疾患(2)	甲状腺、副甲状腺疾患について	
15	内分泌疾患(3)	副腎疾患について	
テキスト		「系統看護学講座 専門4 病理学」 坂本惇彦 著 (医学書院)	
参考書		「シンプル病理学」 綿貫 勤 著 (南江堂)	

授 業 科 目 名	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	担 当 教 員	栗 田 昌 裕
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	消化器系の疾患 1	口腔および食道疾患：口内炎、舌がん、口腔がん、食道炎、食道静脈瘤、食道がん、等	目標 3 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う 3 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄の障害 A 食の障害 c) 咀嚼・嚥下機能の障害 B 消化管粘膜の障害と通過障害 a) 消化管の炎症 b) 消化管の腫瘍
2	消化器系の疾患 2	胃の疾患：胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、ポリープ、胃癌、等	目標 3-3-B
3	消化器系の疾患 3	腸・腹膜の疾患：虫垂炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、腸結核、アメーバ赤痢、大腸ポリープ、大腸がん、等	同上
4	消化器系の疾患 4	肝臓の疾患：肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、肝がん、等	目標 3-3 C 肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害 a) 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症 d) 肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍 c) 胆汁代謝・排泄の障害 d) 糖代謝の障害
5	消化器系の疾患 5	胆嚢・胆管・膵臓の疾患：胆石症、先天性胆道閉塞症、胆嚢がん、等	同上
6	血液・造血器系の疾患 1	骨髄の構造と機能、血液検査、赤血球系の疾患、貧血	目標 3 2 生命維持機能の障害 D 造血にかかわる諸機能 a) 貧血 b) 出血傾向
7	血液・造血器系の疾患 2	白血球系の異常、白血病、等	目標 3-2-D c) 白血球減少症
8	血液・造血器系の疾患 3	リンパ系および脾臓の疾患：リンパ節の疾患、免疫グロブリン合成異常、脾臓の炎症、脾腫、等	目標 3-2-D d) 造血器の腫瘍
9	脳・神経・筋肉系の疾患 1	神経系の構造と特徴。脳血管障害。脳・神経系の感染症：髄膜炎、脳炎(脳脊髄炎)、髄膜脳炎、等	目標 3 1 中枢神経機能の障害 A 脳機能の障害 a) 脳血管系の循環障害 b) 頭蓋内圧亢進を伴う疾患 e) 微生物の中枢神経への感染
10	脳・神経・筋肉系の疾患 2	脳神経系の変性疾患・脱髄疾患・腫瘍：パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病、多発性	目標 3-1-A c) 神経変性・脱髄性の疾患

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
11	脳・神経・筋肉系の疾患3	硬化症、ギランバレー症候群、等 筋肉系の疾患：進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発性筋炎、等	d) 痴呆 g) 二次的に意識障害・神経障害をおこす疾患 目標 3-1-A c) 神経変性・脱髄性の疾患 g) 二次的に意識障害・神経障害をおこす疾患
12	耳・目・皮膚疾	中耳炎、緑内障、乳頭浮腫などの耳・目の疾患。湿疹、蕁麻疹、皮膚の腫瘍など皮膚の疾患	目標 3-1 B 感覚機能の障害 a) 視機能の障害 b) 聴機能の障害 c) 知覚の障害 5 運動機能および皮膚の障害 A 活動や行動を妨げる障害 d) 皮膚の疾患
13	骨・関節系の疾患	骨折、骨髄炎、骨粗鬆症、スポーツ障害、骨肉腫、等	目標 3-5-A a) 姿勢・運動にかかわる骨・関節・筋肉の疾患 b) 運動機能障害による残存機能とリハビリテーション c) 活動や行動が制限されることにより発生する疾患
14	その他	必要に応じて、以上を補う講義を行う	
15	その他	必要に応じて、以上を補う講義を行う	
	テキスト	「系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進 [1]」(医学書院)	
	参考書		

授 業 科 目 名	薬 理 学	担 当 教 員	栗 田 昌 裕
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識、薬物治療に影響を与える因子 投与経路と薬の吸収・分布・代謝・排泄	〔必修問題〕 Ⅲ看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う 4 薬物治療に伴う反応
3	麻酔薬と中枢興奮薬	全身麻酔薬、局所麻酔薬、中枢興奮薬	A おもな薬物の作用と副作用 h)麻薬
4	解熱鎮痛薬・抗炎症薬	解熱鎮痛薬・抗炎症薬、麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬	〔必修問題〕Ⅲ-4-A a) 抗菌薬
5	向精神薬と抗癌薬	向精神薬、抗癌薬（抗てんかん薬）	精神看護学 目標 2 精神看護の基本概念や精神医学の診断・治療を理解し、看護援助を実践できる能力を問う 3 精神科治療と看護
6	筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	筋弛緩薬、抗パーキンソン薬	C 身体療法 a) 薬物療法
7	自律神経薬	自律神経の基礎知識、コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬（付：胃酸分泌抑制薬）、アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬	
8	オータコイド	オータコイドの種類とその作用、プロスタグランディンの臨床応用	
9	強心薬	強心薬（ジギタリス）の投与方法、ジギタリスの副作用とその対策	〔必修問題〕Ⅲ-4-A c) 強心薬・抗不整脈薬
10	抗狭心症薬と抗不整脈薬	抗狭心症薬、抗不整脈薬	〔必修問題〕Ⅲ-4-A c) 強心薬・抗不整脈薬 d) 狭心症治療薬
11	利尿薬	利尿薬、利尿薬の臨床的応用	
12	降圧薬	降圧薬、抗動脈硬化薬	〔必修問題〕Ⅲ-4-A e) 降圧薬・昇圧薬
13	消化器病薬・駆虫薬	消化器病薬、駆虫薬	
14	内分泌薬	下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬	〔必修問題〕Ⅲ-4-A h) 副腎皮質ステロイド薬 g) 糖尿病治療薬
15	血液病薬	貧血の薬、止血薬、抗血栓療法薬	
16	抗癌薬	開発と化学療法、副作用と組み合わせ	〔必修問題〕Ⅲ-4-A b) 抗がん薬
17	化学療法薬	化学療法薬、抗ウイルス剤	
18	免疫療法薬	免疫について、免疫療法	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
19	消毒薬	滅菌・消毒法、消毒薬の濃度と殺菌速度	
20	呼吸器病薬	呼吸器病薬、抗結核薬	
21	皮膚疾患に用いられる薬剤	皮膚疾患に用いられる薬剤	
22	放射線診断・治療薬	造影剤、放射性医薬品	
23	ショックに用いられる薬剤	ショックの原因別分類、ショックの対応と薬剤	
24	点眼薬。輸液	点眼薬、輸液の目的、輸液剤	
25	毒物および解毒剤	中毒の状態、急性中毒に対する処置、解毒剤、排泄と吸着	
26	代謝賦活薬。ビタミン剤	代謝賦活薬・ビタミン剤	
27	小児・妊婦・老年者に対する薬物療法	小児の薬物療法、妊婦の薬物療法、老年者の薬物療法	
28	嗜好品の薬理と薬物相互作用	嗜好品の薬理、薬物相互作用	
29	薬剤の安定性：保存	薬剤の保存、薬剤の混合、配合変化（配合禁忌）	〔必修問題〕Ⅲ-4 B 医薬品の安全対策 a) 混合の可否 b) 禁忌 c) 保存方法
	テキスト	「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」（メジカルフレンド社）	
	参考書		

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	担 当 教 員	松 澤 正
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		リハビリテーションの定義と理念	
2		リハビリテーションの歴史	
3		リハビリテーションの構成と地域リハビリテーション	必修問題
		①医学的リハビリテーションの流れと対象	II 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う
		②リハビリテーション医療関連職種とチームワーク	4 おもな看護活動展開の場と看護の機能
4		障害論	D 関連職種との連携
		①障害の3つのレベル	a) 関連する職種
		②障害者心理	b) チーム医療
			成人看護学
			目標 3 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う
			3 障害への適応と社会復帰への看護
			A 障害受容への援助
			B 障害の改善と克服への援助
5		障害学 1 (関節拘縮、関節変形)	C 社会参加への援助
			疾病の成り立ちと回復の促進
			目標 3 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別
			疾病の特性についての理解を問う
			5 運動機能および皮膚の障害
			A 活動や行動を妨げる障害
			a) 姿勢・運動にかかわる骨・
			関節・筋肉の疾患
			同上
			疾-目 3
			1 中枢神経機能の障害
			A 脳機能障害
			a) 脳血管系の循環障害
			c) 神経変性・脱髄性の疾患
			g) 二次的に意識障害・神経障害をおこす疾患
7		評価学 1 (患者の情報、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力測定)	成人看護学
			目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う
			8 運動機能障害をもつ患者の看護
			A 観察とアセスメント
			a) 四肢長の測定法

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
8		評価学 2 (協調性検査、高次脳機能検査、言語障害検査、心理テスト、日常生活活動検査)	b) 関節可動域の測定法 c) 筋周径の測定法, 徒手筋力検査法 成人-目 4-8-A
9		治療学 1 (運動療法、物理療法、作業療法)	d) 日常生活動作の観察 疾-目 3-5-A b) 運動機能障害による残存機能とリハビリテーション 成-目 4-8 B おもな看護
10		治療学 2 (補装具療法)	d) 関節可動域訓練の適応と原則 e) 筋力増強訓練の適応と原則 成-目 4-8-B o) 負荷・歩行補助具・自助具の適応
11		脳卒中のリハビリテーション 1 (分類、障害)	疾-目 3-1-A a) 脳血管系の循環障害
12		脳卒中のリハビリテーション 2 (発作直後の処置、急性期の看護、臥位訓練、基本的訓練、)	同上
13		脳卒中のリハビリテーション 3 (起居・立ち上がり訓練、移乗動作訓練、歩行動作訓練、階段昇降動作訓練、日常生活動作訓練)	基礎看護学 目標 2 基本的看護技術についての理解を問う A 環境を整える技術 F 活動・運動の援助技術 a) 活動・運動の能力のアセスメント b) 体位変換 c) 床上移動 d) 車椅子への移動・移送
14		脳卒中のリハビリテーションの実際 1	成-目 4-8-B d) 関節可動域訓練の適応と原則 e) 筋力増強訓練の適応と原則
15		脳卒中のリハビリテーションの実際 2	m) 片麻痺における日常生活動作<ADL>の訓練と介助方法 同上
	テキスト	プリント配布	
	参考書		

授 業 科 目 名	救 命 救 急 医 療	担 当 教 員	北 林 司
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ↓ 2	救急医療と看護	① 救急医療の変遷と今後の課題を理解する。 ② 救急医療における看護の役割を理解する。	目標 3:成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 2. 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護 A. 救命救急時の看護
3 ↓ 4	救急患者とその家族	① 救急患者の身体的・精神的・社会的特性を理解する。 ② 救急患者の家族の状況を把握する必要性と、適切な看護介入を理解する。	a) 緊急性と原因のアセスメント b) 心肺蘇生法
5 ↓ 6	救急患者に関する情報収集とアセスメントの視点	① 生命の危機的状況と判断基準を理解する。 ② 救急時の検査と優先順位を理解する。 ③ 緊急手術の適応と看護介入を理解する。	c) 気管切開・気管内挿管時の援助 d) 急性中毒への対処 e) 外相・熱傷・骨折の応急処置
7	重篤な病態と看護	① 重篤な病態と看護を理解する。	f) 危機的状態への精神的支援
8	特殊な病態と看護	① 特殊な病態と看護を理解する。	必修問題Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。
9 ↓ 10	救命救急室における看護	① 救命救急室における看護の役割を理解する。 ② トリアージの方法を理解する。	3. 主要疾患と看護 C. 外傷
11	救命時の看護	① 心肺脳蘇生法を理解する。	c) 外傷性ショック
12 ↓ 13	心肺脳蘇生法演習	② シミュレーターを用いて適切な心肺脳蘇生法が実践できる。(気道確保、人工呼吸、心臓マッサージなど)	基礎看護学 目標 2: 基本的看護技術についての理解を問う。
14 ↓ 15	救命救急室における看護活動演習	① 救命救急室におけるトリアージが実践できる。(複数の患者収容を想定して)	3. 診療に伴う技術 E. 災害看護 a) トリアージ
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名	看 護 理 論 の 基 礎	担 当 教 員	須 藤 絹 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	看護理論とは	看護理論とは	
2	ナイチンゲール	フローレンス・ナイチンゲールの看護理論	
3	ヘンダーソン	バージニア・ヘンダーソンの看護理論	
4	ペプロウ	ヒルデガード・E・ペプロウの看護理論	
5	オレム	ドロセア・E・オレムの看護論	
6	ロイ	シスター・カリスタ・ロイの看護理論	
7	グループ討議	看護理論を一つ選び、その枠組みと特徴についてグループ討議する。	
8	グループ討議	同上	
9	グループ討議	同上	
10	グループ討議	同上	
11	発表	グループ毎に発表する。	
12	発表	同上	
13	発表	同上	
14	まとめ	看護理論の補足	
15	まとめ	看護理論の補足	
	テキスト	「やさしく学ぶ看護理論」黒田裕子（日総研）	
	参考書		

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 技 術 Ⅲ	担 当 教 員	保 坂 さ え 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	共通技術とは	基礎看護技術における共通技術について学ぶ。	目標2
2	カウンセリング	看護におけるカウンセリングの位置づけとその技法について学ぶ。 カウンセラーに求められる基本的態度およびリラクゼーションの方法について学ぶ。	1共通基本技術 B人間の成長を促すための技術 c カウンセリング技術
3	医療における死	民俗学からみた死、安楽死裁判を通しての死などから死について考える。 悲嘆のプロセスおよび死後の処置の方法について学ぶ。	
4	健康教育	健康教育の歴史、教育診断的アプローチについて学ぶ。 健康教育における看護婦の役割について学び、糖尿病教育の例を紹介する。	a 相談・指導 b 教育
5	観察	観察の技術、方法、用語と観察の優先順位、長所と欠点について学ぶ。	E 観察の技術 a 身体面のアセスメント b 精神面のアセスメント
6	観察	観察の方法を事例を通して学ぶ。バイタルサインの測定・評価について演習する。	
7	記録	記録の重要性、記録の種類、記録上の注意について学ぶ。 記録の実際、管理、報告、審査等について学ぶ。	F 記録・報告 a 記録・報告の目的 b 記録の種類 c 記録・報告の条件
8	記録	プロセスレコードの方法を事例を通して学ぶ。	
9	事例展開	事例を通して看護の実際を学習する。	
10	事例展開	同上	
11			
12	発表	グループ毎に発表する。	
13	発表	同上	
14	まとめ	事例から学んだことの整理	
15	まとめ	共通技術で学んだことの整理	
	テキスト	「新版看護学全書基礎看護学2基礎看護技術」内藤寿喜子他（メヂカルフレンド社） 「図解自立支援のための患者ケア技術」初山泰弘（医学書院） 「NANDA看護診断 定義と分類」北米看護診断協会（医学書院） 「看護データブック」神田清子他（医学書院） 「情報ガイドブック」古橋洋子（メヂカルフレンド社） 「ヘンダーソン・ゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント」渡邊トシ子（廣川書店）	
	参考書		

授 業 科 目 名	看 護 過 程 論	担 当 教 員	鹿 村 眞 理 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	看護過程	看護過程を学習する意義について学ぶ。	目標1 2看護の展開
2	看護過程	看護過程の構成要素、用語等について学ぶ。	
3	看護過程	問題解決法について学ぶ。	
4	看護過程	クリティカルシンキング、意思決定など看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ。	
5	看護過程	看護過程の概念の変遷について学ぶ。	
6	看護過程	看護診断について学ぶ。	
7	データ	主観的データ・客観的データについて学ぶ。	
8	アセスメント	情報の分析について学ぶ。	A対象者の全体像の把握 a 情報の収集と分析
9	アセスメント	一次アセスメント・フォーカスアセスメントについて学ぶ。	b 問題の明確化
10	看護診断	看護診断過程について学ぶ。	B 目標設定
11	看護診断	看護診断過程について学ぶ。	a 優先度の決定 b 患者との目標の共有
12	患者目標	患者目標の設定の仕方について学ぶ。	c 目標達成とその時期の設定
13	計画立案	計画立案について学ぶ。	C 計画 a 行動計画の立案
14	実施・評価	実施、評価について学ぶ。	D 期待される結果の明確化 E 実施 a 手段の選択、b 対象者への説明と了解、c 看護の実施と対象者の反応の確認
15	まとめ	看護過程の一連の過程を復習する。	E 評価 a 目標達成の評価、b 看護過程展開の評価、c 再計画
	テキスト	「NANDA看護診断 定義と分類」北米看護診断協会（医学書院） 「看護データブック」新井治子他（医学書院） 「情報収集ガイドブック」古橋洋子（メヂカルフレンド社） 「実践看護アセスメント」渡邊トシ子（廣川書店） 「関連図の書き方」（ナーシングカレッジ）	
	参考書		

授 業 科 目 名	在宅看護活動論 I	担 当 教 員	吉 岡 敏 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	学 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	在宅看護活動とは	*前期は主に、在宅看護を展開するための看護活動の基本的理解をするとともに、家族支援と関係機関との連携を学ぶ。 1年次の概要復習(在宅看護の目的・役割等)	目標 1-1 在宅看護の対象者とその生活
2	在宅療養者と家族①	家族の機能と変遷	A. 在宅看護の対象者
3	在宅療養者と家族②	現代日本の家族	a) 疾病を持つ人と家族
4	在宅療養者と家族③	家族をとらえる視点	b): 障害を持つ人と家族
5	在宅療養者と家族④	介護の実態と家族支援①	c:) 生活自立が困難な人と家族
6	在宅療養者と家族⑤	同上 ②	B. 対象者の生活
7	在宅ケアシステム	在宅ケアの社会資源とシステム	a.) 生活様式と価値観 目標 1-2 看護の継続性 A. 施設と在宅を結ぶ看護 a.) 退院計画、b) 退院指導 c) 継続看護を担う部署と職種、d) 施設と地域の連携システム B. 施設内看護と在宅看護の機能の相違と特徴 a) 場の違いによる看護機能の特徴、b) 生活の場の選択条件
8	在宅看護の場. その構造①	在宅療養者の生活とその構造	目標 1-3 在宅看護の特徴
9	同上 ②	在宅看護活動と要介護量	A. 生活の自立支援
10	同上 ③	家族の介護力	a) 役割の確立、b) 自己決定 c) セルフケア、d) 自立支援 e) 物品の利用と工夫 f) 権利擁護<アドボカシー>
11	在宅看護と経済的側面	在宅療養の診療報酬体系、経済的負担	C. 生活の中で起こる問題の予測と予防
12	在宅看護と法規	保助看法、医療法、老人保健法、地域保健法	D. 家族介護者の理解と健康支援
13	在宅ケアと法規	保健・医療・福祉関係機関の法的位置づけ	
14	在宅ケアと職種	保健・医療・福祉関係職種とその連携	
15	前半のまとめ 中間試験		
16	訪問看護過程の展開 ①	*在宅看護に関する課題を取りあげグループワークで調査し、発表の場も設けたいと考えています。 *後期は主に、在宅における看護過程の展開を中心にそのプロセスを学ぶ。 在宅看護における看護過程、看護計画の位置づけ	目標 I-3-B. 病状・病態の変化の予測と予防
17	訪問看護過程の展開 ②	アセスメント、基本的情報、内容の分析評価	a) 病状経過の予測、 b) 感染防止(結核、MRSA 感染症、疥癬、HIV 感染症、/AIDS)
18	訪問看護過程の展開 ③	事例を用いて演習 I	C. 生活の中で起こる問題の予測と予防
19	訪問看護過程の展開 ④	事例を用いて演習 II	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
20	訪問看護過程の展開 ⑤	事例を用いて演習Ⅲ	a) 転倒 b) 窒息 c) 熱傷 d) 閉じこもり e) 虐待の防止
21	訪問看護過程の展開 ⑥	看護計画の立案Ⅰ	f) 災害時の被災予防 g) 介護力不足の予測
22	訪問看護過程の展開 ⑦	看護計画の立案Ⅱ	D. 家族介護者の理解と健康支援
23	介護保険法と在宅看護①	介護保険法導入の背景	a) 家族介護者のアセスメント
24	介護保険法と在宅看護②	介護保険法下における現状と在宅看護の役割	b) 家族関係の調整 c) 介護方法の指導 d) 家族介護者の健康
25	在宅ケアチーム①	在宅ケアチームの支援の実際	E. チームケアの重要性
26	在宅ケアチーム②	在宅ケアチームの支援の実際	a) 在宅チームケアの意義 b) 他職種との連携・協働
27	ケアマネジメント ①	ケアマネージャーの法的位置づけ、機能、役について	F. ケアマネジメントと看護の役割
28	ケアマネジメント ②	ケアマネージャーの法的位置づけ、機能、役について	a) ケアマネジメントの概念 b) ケアマネジメントの過程 c) 社会資源の活用 d) サービスの調整 e) 介護保険との関連
29	まとめ		
30	試験	看護過程の展開は、実際に3年の臨地実習で使用する看護記録様式を实际用いてそのプロセスを学びます。	
	テキスト	「在宅看護論」杉本正子 眞船拓子編集（廣川書店）	
	参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会） 「国民の福祉の動向」（厚生統計協会）	

授 業 科 目 名	在宅看護活動論Ⅱ	担 当 教 員	吉 岡 敏 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	学 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		*在宅における生活支援技術を理解するとともに、医療管理を必要とする人と状態に合わせた看護を学ぶ。	
1	在宅看護活動とは	在宅看護活動の概念(目的・役割等) 訪問看護とその準備(必要物品・服装等について)	目標 2-1. 在宅における生活支援の方法と技術 A. 食 a) 食事摂取能力のアセスメント b) 摂食障害時・c) 嚥下障害時の援助
2	在宅看護とリハビリテーション	リハビリテーションの特徴と援助、ADL/IADL	B. 排泄 a) 排泄障害のアセスメント b) 排泄補助用具 c) 尿失禁時・d) 便失禁時の援助
3	訪問看護過程とアセスメント	バイタルサイン、心身状態と生活リズム、ライフステージと発達課題、社会との交流	C. 清潔 a) 清潔のアセスメント b) 入浴・c) 清拭・d) 足浴・e) 口腔ケア
4	生活支援の方法と技術 ①	摂取と排泄に関する援助	目標 2-2. 在宅における医療管理を必要とする人と看護 A. 在宅医療と社会制度 B. 薬物療法 C. 在宅酸素療法 a) 対象者 b) 機器の種類 c) 日常生活の注意と工夫 d) 生活範囲の拡大 e) 指導と安全管理
5	生活支援の方法と技術 ②	清潔と移動に関する技術	D. 在宅人工呼吸療法 対象者 b) 人工呼吸器の構造と使い方 c) 気道内のケア d) 指導と安全管理 e) QOLの向上 f) 社会資源の活用
6	在宅医療と社会制度	在宅医療と訪問看護師の医療行為	F. 在宅経管・経腸栄養法 a) 対象者 b) 栄養剤の種類と特徴 c) 栄養評価 d) 合併症の予防 e) 指導と安全管理 f) 医師との連携
7	在宅医療－薬物療法	服薬状況の把握と管理、各専門職との連携	G. 在宅中心静脈栄養法 a) 対象者 b) 中心静脈栄養法 c) 栄養評価 d) 合併症の予防 e) 医師との連携
8	在宅医療管理を必要とする人と看護 ①	在宅酸素療法・人工呼吸療法	
9	在宅医療管理を必要とする人と看護 ②	在宅経管栄養・経腸栄養法／在宅中心静脈栄養法	

回	講義題目	学 科 内 容	国家試験出題基準
10	在宅医療管理を必要とする人と看護 ③	膀胱留置カテーテル法／在宅褥瘡管理	E. 膀胱留置カテーテル法 a)対象者 b)合併症の予防 c)指導と安全管理 d)医師との連携 F. 在宅褥瘡管理 a)褥瘡発生リスクアセスメント b)褥瘡発生予防 c)褥瘡の分類 d)指導と安全管理 e)医師との連携
11	在宅療養者の状態別看護 ①	寝たきり者と痴呆性高齢者の援助	目標 2-3 在宅療養者の状態別看護 A. 寝たきり者 a)寝たきり状態のアセスメント b)合併症の予防 c)生活意欲の向上 d)社会資源の活用 B. 痴呆性高齢者 a)痴呆のアセスメント b)コミュニケーション
12	在宅療養者の状態別看護 ②	難病による療養者の援助	c)問題行動 d)社会資源の活用 C. 難病による療養者 a)特定疾患 b)難病対策要綱 c)急性増悪の早期発見と対応 d)自己決定への支援 e)遺族への看護
13	在宅療養者の状態別看護 ③	終末を迎える療養者の援助	D. ターミナル期の療養者 a)症状コントロール b)家族支援 c)チーム医療 d)自己決定への支援 e)遺族への看護
14	在宅療養者の状態別看護 ④	生活自立困難者の援助	E. 生活自立困難者 a)自立度のアセスメント b)人間関係の調整 c)社会資源の活用
15	まとめ と 評価		
	テキスト	「在宅看護論」杉本正子 眞船拓子編集（廣川書店）	
	参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会） 「国民の福祉の動向」（厚生統計協会）	

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 論 特 講	担 当 教 員	吉 岡 敏 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	学 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	「在宅終末ケア、緩和ケア、ホスピス」を中心に ①～③回 「高齢者虐待を中心に」 ①～③回 まとめ・レポート	<p>*在宅看護、ケア、介護に関する今日的话题を取りあげ、一緒に考え学んでいきたいと思ひます。特に学生自身の関心のある事柄について積極的に取りあげたいと考えています。</p> <p>例えば、「ホスピス」「高齢者虐待」等</p> <p>○緩和ケア・ホスピスを中心に</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>○高齢者虐待を中心に</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>*課題についてのレポートを作成します。</p>	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
テキスト	「在宅看護論」 杉本正子 眞船拓子編集 (廣川書店)		
参考書	「国民衛生の動向」 (厚生統計協会) 「国民の福祉の動向」 (厚生統計協会)		

授 業 科 目 名	急性期の成人看護学	担 当 教 員	北 林 司
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	3 単 位 (4 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
2	【前期】 周手術期の看護	① 周手術期看護の目的を理解する。 ② 手術療法を受ける患者を理解する。 ③ インフォームド・コンセントの概念を理解する。	目標 3 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 -2 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護 B. 手術療法時の看護 a) 術後合併症のリスクとアセスメント b) 合併症の予防処置と指導 c) 不安のアセスメントと援助 d) 麻酔導入と体位 e) 体温管理 f) 褥創予防 g) 感染予防 h) 事故防止 i) 疼痛・苦痛の緩和 j) 術後合併症の予防 k) 排痰法 l) ドレナージと与薬の管理 m) 術後の機能障害と生活制限への援助
3 ～ 4 5 ～ 6	手術前の準備と看護 麻酔と看護 手術室における看護	① 手術を受ける対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 ② 入院から手術までの一連の検査・処置および看護を理解する。 ① 各種麻酔の方法と適応を理解する。 ② 麻酔を受ける対象への看護を理解する。 ① 手術室看護師の役割を理解する。 ② 手術室の構造と設備を理解する。 ③ 手術と看護の実際を理解する。 ④ 回復室における看護を理解する。	目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 -1. 呼吸機能障害を持つ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 胸部運動の視診法 b) 呼吸音の聴取法 c) 胸水観察法 d) 呼吸器症状、喀痰、肺機能検査、動脈血ガス分析値の正常性 e) 換気障害、ガス交換障害の程度・分類・原因 f) 心身・日常生活への影響 B. 主な看護 a) 気管支鏡・造影検査時の援助 b) 胸腔穿刺検査時の援助 c) 肺切除術の看護 d) 胸腔鏡下手術の合併症予防 e) 抗アレルギー薬、気管支拡張薬、副腎皮質ステロイド薬の服薬指導 f) 吸入療法、胸腔ドレナージ時の管理 g) 呼吸困難時の安楽な体位 h) 喀痰困難児の肺理学療法 i) 喘息発作時の対応と予防指導 j) 慢性呼吸不全の呼吸療法と生活指導 必修問題Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 2. 病態と看護 A. 症状と看護 d) 喀痰、血痰、喀血 f) 呼吸困難
7 ～ 8 9	模擬手術(演習) 手術後の合併症と回復への援助	① 手術に用いられる器材の名称と用途を理解する。 ② 手洗いとガウンテクニックを理解する。 ① 手術侵襲が生体に及ぼす影響を理解する。 ② 術後に起こりうる合併症を理解する。 ③ 手術後の看護の実際を理解する。 ④ 手術を受ける患者と家族への看護を理解する。 ⑤ 術後回復期における看護を理解する。	目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 -2. 循環機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 浮腫・うっ血の観察法 b) 心電図の測定(電極の装着) c) 身体所見、自律神経反射、心電図所見の正常性 d) 障害の原因と程度 e) 心身・日常生活への影響 B. 主な看護 a) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査時の援助 b) 経皮的冠動脈形成術の看護 c) ペースメーカー装着時の生活指導 d) 開心術の看護 e) 降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導 f) 抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導 g) 血圧コントロールの生活指導 h) 虚血性心疾患の生活指導 i) 慢性心不全の看護 必修問題Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 2. 病態と看護 A. 症状と看護 e) チアノーゼ g) 胸痛 h) 不整脈 j) 血圧上昇、低下 3. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 b) 虚血性心疾患 c) 高血圧症
10 ～ 16	呼吸機能障害をもつ成人の看護	① 呼吸器症状を理解する。 ② 呼吸機能障害と日常生活を理解する ③ 機能障害の把握と看護を理解する。 ④ 呼吸音の聴取法を理解する。 ⑤ 低圧持続吸引器の取り扱いを理解する。 ⑥ 呼吸機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 ⑦ 肺理学療法を理解する。 ⑧ 呼吸機能障害のある患者の看護を理解する。 ⑨ 気管支喘息患者の看護を理解する。 ⑩ 肺気腫患者の看護を理解する。 ⑪ 肺癌患者の看護を理解する。 ⑫ 喉頭癌患者の看護を理解する。	目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 -2. 循環機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 浮腫・うっ血の観察法 b) 心電図の測定(電極の装着) c) 身体所見、自律神経反射、心電図所見の正常性 d) 障害の原因と程度 e) 心身・日常生活への影響 B. 主な看護 a) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査時の援助 b) 経皮的冠動脈形成術の看護 c) ペースメーカー装着時の生活指導 d) 開心術の看護 e) 降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導 f) 抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導 g) 血圧コントロールの生活指導 h) 虚血性心疾患の生活指導 i) 慢性心不全の看護 必修問題Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 2. 病態と看護 A. 症状と看護 e) チアノーゼ g) 胸痛 h) 不整脈 j) 血圧上昇、低下 3. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 b) 虚血性心疾患 c) 高血圧症
17 ～ 23	循環機能障害をもつ成人の看護	① 循環器の症状を理解する。 ② 循環機能障害と日常生活を理解する。 ③ 循環機能障害の把握と看護を理解する。 ④ 心電図の測定法を理解する。 ⑤ 心電図の以上を理解する。 ⑥ 循環機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 ⑦ 経皮的冠動脈形成術を理解する。 ⑧ 循環器疾患患者の薬物療法を理解する。 ⑨ 循環機能障害のある患者の看護を理解する。 ⑩ 心筋梗塞患者の看護を理解する。 ⑪ 心不全患者の看護を理解する。 ⑫ ペースメーカーと装着患者の看護を理解する。 ⑬ 真性大動脈瘤患者の看護を理解する。 ⑭ 大動脈解離患者の看護を理解する。 ⑮ 下肢静脈瘤患者の看護を理解する。	目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 3. 栄養・代謝障害をもつ患者への看護 A. 咀嚼・嚥下障害の観察とアセスメント a) 歯、舌、口腔、咽頭、喉頭の観察 b) 嚥下テスト c) 咀嚼・嚥下障害の原因と程度 d) 心身・日常生活への影響 B. 咀嚼・嚥下障害の主な看護 a) IVHの適応と管理 b) 舌切除後の生活指導 c) 喉頭・咽頭切除後の生活指導 d) 食道再建術の合併症予防と生活指導 e) 咀嚼・嚥下訓練 f) 嚥下障害部位に応じた摂取の援助 g) 経管・経腸栄養法の管理と指導 D. 消化・吸収障害の観察とアセスメント

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
24 ～ 30	消化・吸収機能障害をもつ成人の看護	<p>① 消化器の症状を理解する。</p> <p>② 咀嚼と嚥下を理解する。</p> <p>③ 高カロリー輸液療法を理解する。</p> <p>④ 腹部の観察法を理解する。</p> <p>⑤ 消化・吸収機能と日常生活を理解する。</p> <p>⑥ 消化・吸収機能障害の把握と看護を理解する。</p> <p>⑦ 消化・吸収機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。</p> <p>⑧ 胃切除術を理解する。</p> <p>⑨ 腹会陰式直腸切除術を理解する。</p> <p>⑩ 直腸低位前方切除術を理解する。</p> <p>⑪ 肝切除術を理解する。</p> <p>⑫ PTCDの目的と管理を理解する。</p> <p>⑬ 排便機能障害の観察とアセスメントを理解する。</p> <p>⑭ 排便機能障害への主な看護を理解する。</p> <p>⑮ 人工肛門と管理方法を理解する。</p> <p>⑯ イレウス管の管理を理解する。</p> <p>⑰ 消化・吸収機能障害をもつ患者の看護を理解する。</p> <p>⑱ 食道がん患者の看護を理解する。</p> <p>⑲ 胃癌患者の看護を理解する。</p> <p>⑳ 消化性潰瘍患者の看護を理解する。</p> <p>㉑ 急性・慢性膵炎患者の看護を理解する。</p> <p>㉒ 大腸癌患者の看護を理解する。</p>	<p>a) 腹部の観察法 b) 身体所見、排泄物、血液検査地の正常性</p> <p>c) 肥満度の算出 d) 障害の原因と程度</p> <p>e) 心身・日常生活への影響</p> <p>目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。</p> <p>-9 排泄機能障害を持つ患者の看護</p> <p>C. 排便機能障害の観察とアセスメント</p> <p>a) 排便のパターン・動作・行動、便性状の観察 b) 排便状態、便正常の正常性 c) 機能障害の程度と原因 d) 心身・日常生活への影響とコントロール</p> <p>D. 排便機能障害への主な看護</p> <p>a) 大腸ファイバースコープ、直腸診時の援助 b) 人工肛門造設術後の合併症予防と生活指導 c) 低位前方切除術後の合併症予防と生活指導 d) 脳卒中による排便障害への対応 e) 脊髄損傷による排便障害への対応 f) イレウスの予防と改善</p> <p>目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。</p> <p>E. 消化・吸収障害の主な看護</p> <p>a) IVHの適応と管理 b) 消化管内視鏡・造影検査時の援助 c) 胃切除術の合併症予防と生活指導 d) 腸切除後の合併症予防と生活指導 e) 胆嚢摘出術の合併症予防 f) 胆汁瘻の管理と指導 g) 胃・十二指腸潰瘍の生活指導 h) 膵炎の生活指導 i) 腹痛、嘔吐、吐血、下血、下痢の看護</p> <p>必修問題III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。</p> <p>2. 病態と看護</p> <p>A. 症状と看護</p> <p>j) 腹痛 k) 嘔吐 l) 下痢 m) 便秘</p> <p>目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。</p> <p>3. 栄養・代謝障害をもつ患者への看護</p> <p>F. 肝機能障害の観察とアセスメント</p> <p>a) 肝肥大の観察 b) 黄疸・腹水の観察法 c) 意識レベル・内容の観察法 d) 身体所見、血液検査の正常性 e) 障害の原因と程度 f) 心身・日常生活への影響とコントロール</p> <p>G. 肝機能障害の主な看護</p> <p>a) 肝生検時の援助 b) インターフェロン療法時の生活指導 c) 食道静脈瘤硬化療法の合併症予防 d) 肝切除術の合併症予防と生活指導 e) 肝動脈塞栓術の合併症予防と生活指導 f) 食道静脈瘤の破裂予防と破裂時の対応 g) 肝性脳症の予防と生活指導 h) 肝底護の生活指導 i) 浮腫・腹水の生活指導 j) 黄疸の生活指導</p> <p>H. 糖代謝障害の観察とアセスメント</p> <p>a) 血糖、尿糖の測定法 b) 肥満度、摂取・消費エネルギーの算出 c) 身体所見、血液・尿検査、神経学的所見の正常性 d) 障害の原因と程度 e) 心身・日常生活への援助</p> <p>I. 糖代謝障害の主な看護</p> <p>a) インスリン療法、経口糖尿病薬指導 b) インスリン自己注射の指導 c) 糖尿病の食事療法・運動療法の指導 d) 糖尿病の合併症予防の生活指導</p> <p>J. 脂質・尿酸代謝障害の観察とアセスメント</p> <p>a) 身体所見・血液所見、食生活の正常性 b) 障害の原因と程度 c) 心身・日常生活への影響</p> <p>K. 脂質・尿酸代謝障害の主な看護</p> <p>a) 高脂血症の生活指導 b) 高尿酸血症の生活指導 必修問題. 看護に必要な人体の構と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。</p> <p>3. 主要疾患と看護</p> <p>B. 感染症</p> <p>d) ウイルス性肝炎</p> <p>A. 生活習慣病</p> <p>e) 糖尿病</p> <p>2. 病態と看護</p> <p>A. 症状と看護</p> <p>c) 黄疸</p>
1 ～ 15	【後期】 栄養代謝機能障害をもつ成人の看護	<p>① 栄養代謝機能障害の症状を理解する。</p> <p>② 栄養代謝機能障害と日常生活を理解する。</p> <p>③ 栄養代謝機能障害の把握と看護を理解する。</p> <p>④ 栄養代謝機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。</p> <p>⑤ インターフェロン療法と看護を理解する。</p> <p>⑥ 食道静脈瘤硬化療法と看護を理解する。</p> <p>⑦ 肝動脈塞栓術と看護を理解する。</p> <p>⑧ インスリン療法と運動療法を理解する。</p> <p>⑨ 肥満度、摂取・消費エネルギーの算出を理解する。</p> <p>⑩ 血糖、尿糖の測定方法を理解する。</p> <p>⑪ 栄養代謝機能障害をもつ患者の看護を理解する。</p> <p>⑫ 急性肝炎患者の看護を理解する。</p> <p>⑬ 慢性肝炎患者の看護を理解する。</p> <p>⑭ 肝硬変患者の看護を理解する。</p> <p>⑮ 胆石症患者の看護を理解する。</p> <p>高脂血症患者の看護を理解する。</p>	
	テキスト	「新版看護学全書別巻 1, 2 臨床外科看護学 1, 2」 (メヂカルフレンド) 「新体系看護学 22 成人看護学②」 (メヂカルフレンド) 「新体系看護学 23 成人看護学③」 (メヂカルフレンド)	
	参考書	「事例で学ぶ成人看護学 1」 (メヂカルフレンド) 「事例で学ぶ成人看護学 2」 (メヂカルフレンド)	

授 業 科 目 名	慢性期の成人看護学	担 当 教 員	板 垣 喜 代 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	3 単 位 (4 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ～ 3	慢性的な経過をたどる健康障害への看護の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患及び慢性期の健康障害の特徴を学び、慢性期にある人の心身・生活・家族への影響を理解する。 セルフケアの概念及びセルフケアに影響する要因を学び、セルフケア能力のアセスメント、疾患需要・症状のコントロールへの援助、健康教育などの看護の特徴を学ぶ。 特定疾患治療研究対象疾患（難病）患者の抱える問題、看護の特徴、社会資源について理解する。 	目標 3-1 疾病の保持・増進、疾病の予防に向けた看護 A. 生活習慣病の予防 a) 適正な日常生活習慣の指標 b) 定期的健康診断システムと受診者 目標 3-4 慢性的な経過をたどる健康障害への看護 A. セルフコントロールへの援助 a) 心身のモニタリング b) 受診・治療の継続 c) 生活習慣・ライフサイクルの変更 d) 自己効力感強化の方法 e) 自己概念の修正 B. 社会的支援の獲得 a) 家族・患者会による支援 b) 特定疾患治療研究事業の適応と保護
4 ～ 11	【各機能障害を持つ患者の看護】 1) 内部環境調節障害をもつ成人の看護	①体温調節機能障害と日常生活を理解する。 ②体温調節機能障害の把握と看護を理解する ③体温調節機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する ④甲状腺機能亢進症患者の看護を理解する。 ⑤主な下垂体疾患とその看護について理解する。 ⑥主な副腎疾患とその看護について理解する。 ⑦腎障害患者の検査・治療に伴う看護を理解する。 ⑧透析療法患者の看護を理解する。 ⑨腎移植患者の看護を理解する。	目標 4-4 内部環境調節障害をもつ患者への看護 A. 内分泌機能の観察とアセスメント a) 甲状腺触診法 b) 身体・精神・血液所見、ホルモン定量、代謝率の正常性 c) 心身・日常生活への影響 B. 内分泌機能障害の看護 a) 甲状腺切除術後の生活指導 b) 脳下垂体切除術後の生活指導 c) 副腎摘出術時の生活指導 d) ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導 e) ホルモンバランス失調状態の生活指導 C. 体温調節機能の観察とアセスメント a) 浮腫・脱水の観察法 b) 水分出納、身体所見、血液検査の正常性 c) 体液不均衡の程度と原因、腎不全の病期 d) 心身・日常生活への影響 D. 体液不均衡の看護 a) 腎生検時の援助 b) 腎臓移植術後の看護 c) 透析療法の適応基準と選択 d) 血液透析・腹膜透析の管理 e) シャントの管理と患者指導 f) 維持透析の生活指導 g) 慢性腎不全の病期に応じた生活指導 E. 体温調節機能の観察とアセスメント a) 発熱・熱型と随伴症状 b) 体温異常の原因と程度 c) 心身・日常生活への影響 F. 体温調節機能障害への看護 a) 熱中症、過高熱への対応 b) 低体温への対応 目標 4-9 排泄機能障害をもつ患者の看護 A. 排尿機能障害の観察とアセスメント a) 排尿パターン・動作・行動、尿性状の観察 b) 排尿状態、一般尿検査、尿流動態検査の正常性 c) 蓄尿・尿排泄障害の程度と原因 d) 心身・日常生活への影響とコントロール 【必修問題】 III-2-A. 症状と看護 a) 発熱 b) 脱水 n) 乏尿、無尿、頻尿 o) 浮腫
12 ～ 19	2) 身体防御機能障害をもつ成人の看護	①身体防御機能障害と日常生活を理解する。 ②身体防御機能障害の把握と看護を理解する。 ③身体防御機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する ④急性・慢性白血病患者の看護を理解する ⑤悪性リンパ腫患者の看護を理解する。 ⑥造血幹細胞移植を受ける患者の看護を理解する。	目標 4-5 身体防御機能の障害をもつ患者の看護 A. 免疫機能の観察とアセスメント a) 炎症反応の観察 b) 身体所見・血液検査の正常性 c) 機能低下の原因と程度 d) 心身・日常生活への影響 B. 免疫機能低下の看護

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
20 ～ 27	3) 脳・神経機能障害をもつ成人の看護	<p>⑦ 膠原病患者の看護・生活指導方法を理解する。 ⑧ アレルギー疾患患者の生活指導を理解する。 ⑨ MRSA 感染症患者の看護を理解する ⑩ HIV 感染症/AIDS 患者の看護を理解する。 ⑪ 褥瘡のある患者の看護を理解する。</p> <p>① 脳・神経機能障害と日常生活を理解する。 ② 脳・神経機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する ③ 意識障害のある患者の要因・アセスメント・看護を理解する。 ④ 運動麻痺のある患者の要因・アセスメント・看護を理解する。 ⑤ 言語障害患者の要因・アセスメント・看護を理解する。 ⑥ 排尿障害の要因・アセスメント・看護を理解する。 ⑦ 脳梗塞患者の看護を理解する ⑧ クモ膜下出血患者の看護を理解する。 ⑨ 脊髄損傷患者の看護を理解する。 ⑩ パーキンソン病患者の看護を理解する。</p>	<p>a) 骨髄穿刺時の援助 b) 骨髄移植、幹細胞移植時の看護 c) 移植時の倫理的配慮 d) 膠原病の生活指導 e) アレルギー疾患の生活指導 f) HIV 感染症/AIDS の生活指導 C. 感染症の観察とアセスメント a) 熱型、身体所見、分泌・排泄物、血液所見の正常性 b) 感染の部位、原因、程度 c) 心身・日常生活への影響 D. 感染症の看護 a) スタンダードプリコーション b) 感染経路に対応した感染予防 c) 職業上の感染予防 【必修問題】 III-2-A. 症状と看護 p) 貧血 III-3-B. 感染症 a) インフルエンザ b) 多剤耐性ブドウ球菌感染症 c) 腸管出血性大腸炎 e) 結核 f) HIV 感染症/AIDS</p> <p>目標 4-7 認知機能・コミュニケーション障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 意識障害の診察法 b) 言語の表出と理解の観察 c) 環境認知の観察 d) 言語・行動・神経学的検査の正常性 e) 意識障害の程度と原因、日常生活への影響 f) 注意・記憶障害の原因と程度、心身・日常生活への影響 g) 空間認知障害の原因と程度、心身・日常生活への影響 h) 言語機能障害の原因と程度、心身・日常生活への影響 B. おもな看護 a) 髄液検査時の援助 b) 脳血管撮影時の援助 b) 脳の血腫・腫瘍・動脈瘤摘出術の看護 c) 遷延性意識障害の看護 d) 注意・記憶障害に対応した生活指導 e) 空間失認の生活訓練・環境調整 f) 失語・構音障害の生活訓練と援助 目標 4-9 排泄機能障害を持つ患者の看護 B. 排泄機能障害へのおもな看護 a) 脳卒中による排尿障害への訓練と援助 脊髄損傷による排尿障害への訓練と援助 b) 腹圧性尿失禁の運動訓練と生活指導 目標 4-8-B k) パーキンソン症候群への対応と生活指導 p) ドーパミン補充療法の服薬指導 【必修問題】 III-3-A. 生活習慣病 d) 脳血管疾患</p>
28 ～ 31	4) 感覚機能障害をもつ成人の看護	<p>① 視覚機能障害・聴覚障害・嗅覚障害・味覚障害・触覚障害と日常生活を理解する。 ② 視覚機能障害・聴覚障害・嗅覚障害・味覚障害・触覚障害の把握と看護を理解する。 ③ 視覚機能障害・聴覚障害・嗅覚障害・味覚障害・触覚障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 ④ 視覚機能障害・聴覚障害・嗅覚障害・味覚障害・触覚障害をもつ患者の看護を理解する。</p>	<p>目標 4-6 感覚機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 視力、視野、眼球運動の検査法 b) 聴力検査法 c) 平衡感覚検査法 d) 触覚・味覚・嗅覚の検査法 e) 検査所見の正常性 f) 各感覚機能障害の原因と程度 g) 心身・日常生活への影響 B. おもな看護 a) 光凝固・硝子体手術の看護 b) 角膜移植術の看護 c) 鼓室形成術の看護 d) 副鼻腔手術の看護 e) 視力・視野障害の看護 f) 聴覚障害の看護 g) 平衡感覚障害の事故防止 h) 神経障害の生活指導 i) 味覚・嗅覚障害の生活指導 j) 点眼薬投与時の事故防止 【必修問題】 III-3-C. 外傷 b) 創傷の治癒過程</p>

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
32 ～ 36	5) 運動機能障害をもつ成人の看護	①運動機能障害と日常生活を理解する。 ②運動機能障害の把握と看護を理解する。 ③運動機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 ④ギプス固定・牽引時の生活の援助方法を理解する。 ⑤下肢切断・離断術後の看護を理解する。 ⑥人工股関節全置換術時の看護を理解する。	目標 4-8 運動機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 四肢長の測定法 b) 関節可動域の測定法 c) 筋周径の測定法、徒手筋力検査法 d) 日常生活動作の観察 e) 四肢の形状、運動、姿勢、歩行の正常性 f) 機能障害の程度と原因 g) 心身・日常生活への影響 B. おもな看護 a) ミエログラフィー時の看護 b) 効果的な固定法・牽引法と生活の援助 c) ギプス固定・各種牽引療法時の合併症予防 d) 関節可動域訓練の適応と原則 e) 筋力増強訓練の適応と原則 f) 骨折の観血的整復術の看護 g) 人工骨頭置換術の看護 h) 四肢切断・再接着術の看護 i) 脊柱手術後の生活の援助 j) 変形性関節症の生活指導 l) 関節・脊柱の疼痛の緩和 m) 片麻痺における日常生活動作<ADL>の訓練と介助方法 n) 脊髄損傷レベルに対応した日常生活動作の訓練と介助方法 o) 免荷・歩行補助具・自助具の適応 q) 退院スタイルの決定要因と調整 r) 家族の介護指導と介護負担 【必修問題】 Ⅲ-3-C. 外傷 a) 骨折
37 ～ 40	6) 性・生殖機能障害をもつ成人の看護	①性・生殖機能障害と日常生活を理解する。 ②性・生殖機能障害の把握と看護を理解する。 *男性に現れる症状と看護 *女性に現れる症状と看護 ③性・生殖機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 ④乳房切除術時の看護を理解する。 ⑤子宮摘出術時の看護を理解する。	目標 4-10 性機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 生殖器、ホルモン分泌、性行動の正常性 b) 性行動・性機能障害の原因と程度 c) 心身・性生活・日常生活への影響 B. おもな看護 a) 内診、性機能検査時の看護 b) 子宮摘出術・乳房切除術時の精神的支援と性生活指導 c) 精巣<睾丸>・前立腺摘出術時の精神的支援と性生活指導 d) 勃起障害に対する薬物療法時の看護 e) 脳卒中患者の性生活指導 f) 心筋梗塞患者の性生活指導 g) 脊髄損傷患者の性生活指導
41 ～ 45	【がん患者の看護】 1) がんの特殊性とがん患者の理解 2) がん治療を受ける患者が持つ問題と看護 3) がんと共に生きる 4) 終末期にある患者の持つ問題と看護 5) 終末期における家族への援助	①成人期のがん疾患の動向と予防・発見システム、がん疾患が及ぼす身体的、心理的社会的影響と看護の特徴を学ぶ。 ②化学療法、放射線療法などの治療、リハビリテーションを受ける患者の看護を学ぶ。 ③「告知の問題」、がんとの共生のプロセス、その援助、家族が抱える問題、患者家族を支えるためのソーシャルサポートなどについて学ぶ。 ④終末期の身体的苦痛とその援助、精神的・社会的苦痛とその援助について学ぶ。 ⑤終末期にある患者の家族ニーズ、死別の受容プロセスなどを学び、家族への支援システムを理解する。 *事例学習、グループワークなど *途中、適宜、中間試験実施	目標 3-5 終末期の看護 A. 緩和ケア a) 苦痛のアセスメント b) 疼痛コントロール c) QOLの保障 d) 悲嘆へのケア 【必修問題】 Ⅲ-3-A. 生活習慣病 a) がん
	テキスト	「新体系看護学 23 成人看護学④」 (メジカルフレンド社) 「新体系看護学 24 成人看護学⑤」 (メジカルフレンド社) 「新体系看護学 25 成人看護学⑥」 (メジカルフレンド社)	
	参考書		

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 特 講	担 当 教 員	矢 嶋 和 江
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	災害概論	災害と災害管理 災害に関する基礎的知識 災害管理とその様相 災害による援助ニーズの経時的変化	【基礎看護学】 目標 2-3 診療に伴う技術 E. 災害看護 a) トリアージ
2		※D I G (災害時の避難シミュレーション)	
3		多死傷者の管理について トリアージとは レスキュー(救出)とタグging(負傷者分類)の原則 どこでトリアージするのか ※机上シミュレーション	
4	災害看護とは	災害と看護職の役割 災害看護とは 災害時看護の役割と責任	
5	病院施設の災害管理	施設の災害被害軽減対策 災害対応マニュアルと訓練 備蓄について 入院患者管理 多死傷受入れの為の準備 看護職員管理と医療ボランティアの配置	
6	災害時の保健問題と保健計画	災害時被災者の看護問題 被災者に起こりえる問題、要求について 保健問題の初期計画と保健プログラム 避難センターにおける保健活動	
7	災害のもたらす心理的衝撃とその対策	被災者と援助者のための心のケア 被災者はどのようにして災害から立ち直るか 悲嘆の過程 心理的介入の原則 救援者のストレス対策	
8	まとめ		
	テキスト	資料配布	
	参考書	「看護師・介護士のための災害救護ハンドブック」 「災害看護」 太田宗夫・高橋章子著 (メデイカ出版) 「災害医療ハンドブック」 国際災害研究会編 (医学書院) 「国際災害看護マニュアル」 国際看護交流協会災害看護研修運営委員会 (真興交易) その他	

授 業 科 目 名		老年の健康障害と看護Ⅰ	担 当 教 員	山 田 ノ リ 子	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	通 年	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	1. 老年看護学の基本的な考え方	A 高齢者とQOL<クオリティ・オブ・ライフ	目標 2-1 A 高齢者とQOL<クオリティ・オブ・ライフ a) 高齢者の尊厳と権利庇護<アドボカシー>b) ノーマライゼーションc) 自立支援とエンパワメント B 老年看護活動の特性 a) 安全な生活への看護b) 健康の保持増進と予防活動の重視c) 疾病の回復への看護d) 日常生活能力の維持・改善e) ターミナルケアと人生の終結への看護f) 継続ケアと在宅生活への看護g) 家族との協働と家族看護チームアプローチh) ケアの調整とリスクマネジメントi) チームアプローチj) 老年看護活動の場の特質と看護 C 老年看護における倫理的課題 a) 自己決定b) 資源の公平な分配c) 高齢者差別d) 虐待・身体拘束e) 成年後見制度 目標 2-2 A 高齢者の観察 a) 加齢変化の正常と異常b) 生活障害の程度と範囲c) 身体兆候と訴え B 高齢者とのコミュニケーション a) 加齢とコミュニケーション能力b) 高齢者とのコミュニケーションの方法 C 高齢者の障害受容への看護 a) 高齢者の障害受容のプロセスb) 高齢者の障害受容の特徴の理解 目標 2-3 A 健康生活の維持 a) 食生活と栄養b) 運動とレクリエーションc) 休息と睡眠d) 排泄e) 身だしなみf) 性生活g) 住環境h) 対人関係と社会的活動 B 加齢に伴う身体的徴候と看護 a) 痛みb) かゆみc) 不眠d) しびれe) 冷えf) 便秘g) 振戦 C 事故・災害の予防と救急への対応 a) 転倒・転落b) 熱傷c) 窒息d) 感染e) 急変・救急時の看護f) 災害時の対応		
2					
3					B 老年看護活動の特性
4					
5		C 老年看護における倫理的課題			
6					
7					
8					2. 老年看護の基礎的技術
9					
10	B 高齢者とのコミュニケーション				
11					
12	C 高齢者の障害受容への看護				
13					
14		3. 高齢者の健康を支える看護	A 健康生活の維持		
15					
16					
17	B 加齢に伴う身体的徴候と看護				
18					
19	C 事故・災害の予防と救急への対応				
20					
21					

回	講義題目	教 科 内 容	国家試験出題基準
22 23 24 25 26 27 28 29 30	4. 障害・疾病をもつ 高齢者への看護	A 視覚の障害 B 聴覚の障害 C コミュニケーションの障害 D 排泄コントロールの障害 E 日常生活動作<ADL>の障害 F 長期臥床状態・廃用性症候群 G 老人性痴呆・精神障害 H 骨粗鬆症 I 老年期に特徴的な疾患と看護	目標 2-4 A 視覚の障害 a) 視覚障害の程度と生活への影響の評価 b) 住環境の整備 c) 眼鏡の適用と管理 d) 白内障治療時の看護 B 聴覚の障害 a) 聴覚障害の程度と生活への影響の評価 b) 会話の方法 c) 補聴器の適用と管理 C コミュニケーションの障害 a) コミュニケーション障害の原因の把握 b) コミュニケーション障害と生活への影響の評価 c) 他者との交流の促進への看護 D 排泄コントロールの障害 a) 排泄コントロール障害の原因の把握 b) 排泄コントロール障害と生活への影響の評価 c) 排泄コントロールに対する看護 E 日常生活動作<ADL>の障害 a) 日常生活動作<ADL>の評価と看護(移動・食事・排泄・更衣・入浴) b) 自助具の選択・整備 c) 日常生活動作能力再獲得のための看護 d) 残存機能を引き出す援助方法 F 長期臥床状態・廃用性症候群 a) 長期臥床状態の原因の把握 b) 生活機能障害の程度と残存機能の評価 c) リハビリテーションに向けた看護 d) 合併症の予防 G 老人性痴呆・精神障害 a) 痴呆の種類と評価方法 b) 物忘れと記憶障害 c) 見当識障害 d) 精神症状 e) コミュニケーションの方法 f) 日常生活遂行能力 g) 情緒安定をはかる看護 h) 療法的なアプローチ i) 老年期に多い精神障害 H 骨粗鬆症 a) 骨粗鬆症の程度と生活への影響の評価 b) 転倒・骨折の予防 c) 合併症の予防 I 老年期に特徴的な疾患と看護 a) 老年期に特徴的な疾患 b) 老年期に特徴的な疾患をもつ患者の看護
	テキスト	「系統看護学講座 21 老年看護病態・疾患論」佐々木秀忠 (医学書院) 「よくわかる看護学生のためのコミュニケーション」武政奈保子 (青山社)	
	参考書		

授 業 科 目 名	老年の健康障害と看護Ⅱ	担 当 教 員	山 田 ノ リ 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	1. 治療を受ける高齢者への看護 2. 高齢者の終末期の看護 3. 在宅高齢者の看護	A 薬物療法 B 手術 C 受療形態に応じた看護 A 終末期にある高齢者の看護 B 看取りを終えた家族への看護 A 訪問看護	目標 2-5 A 薬物療法 a) 加齢と薬物動態 b) 疾患の重複による多剤投与 c) 副作用をまねきやすい薬物 d) 副作用の徴候の観察・評価 e) 副作用の予防 f) 服薬過誤の予防と看護 g) 薬物管理とリスクマネジメント B 手術 a) 検査・手術に関する説明と了解 b) 術前の指導と術中・術後の管理 c) 早期離床への援助 d) 術後せん妄と看護 e) 合併症の予防 C 受療形態に応じた看護 a) 治療をうける高齢者の心身の特徴と看護 b) 入院 c) 外来、デイケア 目標 2-6 A 終末期にある高齢者の看護 a) 高齢者の死のとりえ方 b) 死の迎え方の意向<リビングウィル>と対応 c) 看取りに対する合意の形成 d) 死の受容への看護 e) 死の徴候の観察・評価 f) 合併症の予防 g) 苦痛の緩和と安楽への看護 h) 臨死期の対応 i) 家族の参加と家族への看護 B 看取りを終えた家族への看護 a) 家族の心理の理解と看護 b) 家族へのグリーンワーク c) 家族の生活の再構築への看護 目標 3-3 A 訪問看護 a) 訪問看護の目的と役割 b) 訪問看護の特徴と援助技術

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
11	4. 高齢者を介護する家族への看護	B チームアプローチ	B チームアプローチ a) 他機関・施設との連携サービスの理解 b) 他職種との連携・協働 c) チームケアと看護の役割 d) 家族への支援と協働
12		C 社会資源の活用	C 社会資源の活用 a) フォーマルな資源とその活用 b) インフォーマルな資源とその活用
13		A 介護家族の生活と健康	目標 3-4 A 介護家族の生活と健康 a) 要介護高齢者と家族の理解 b) 介護者の健康と介護力 c) 家族生活への影響
14		B 介護家族への看護	B 介護家族への看護 a) 家族介護状況の把握と分析 b) 家族援助の視点と看護 c) 介護力の評価 d) 介護受容の過程への看護 e) 支援ネットワークづくり
15		C 家族介護の課題	C 家族介護の課題 a) 介護問題の社会的動向 b) 地域支援と市民参加 c) 介護の社会化と看護の役割
	テキスト	「系統看護学講座 21 老年看護病態・疾患論」佐々木秀忠 (医学書院) 「よくわかる看護学生のためのコミュニケーション」武政奈保子 (青山社)	
	参考書		

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 特 講	担 当 教 員	吉 田 年 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ～ 5 6 7	事例によるデータ解釈 まとめ	1 事例の解説、データ解釈のために学習しておくことを説明する 2 事例データのアセスメントを、次回までに自己学習により終了して授業に参加する 1. データの解釈を質問する 2. データのアセスメントを質問する 3. アセスメントの方法を説明する 事例全体のまとめを行う 不足しているデータは何か質問しながら明らかにする 課題: 事例の看護を必要とする問題をすべて列記する その問題には優先順位を付ける	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	小児の健康障害と看護Ⅰ	担 当 教 員	木 内 妙 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 4	健康障害の子どもの看護	健康障害のある子どもと家族の最善の利益を考える 病気や障害をもつ子どもとその家族に対する Social support 子どもの闘病を支える各種団体、NPO 法人などの活動の実際 病気の子どもをめぐる社会状況の変化	目標 1 : 子どもの成長発達と健康増進のための子どもと家族への看護実践についての理解を問う 大項目： 1. 子どもと家族の看護の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもの健康増進のための看護
5 6	乳児期－急性期の子どもと家族の看護 1	低出生体重児の事例を通して学ぶ NICU における看護、NICU ケアにおける考え方 生育限界と倫理	
7 8	乳児期－急性期の子どもと家族の看護 2	先天性心疾患の事例から考える (VSD, ファロー四徴症など) 循環器系の主要症状についてのアセスメント、看護介入の方法、事例のアセスメント	
9 10	幼児期－急性期の子どもと家族の看護	髄膜炎の事例から考える、発熱・脱水・嘔吐のアセスメント、苦痛の大きい検査を受ける子どもの看護 子どもの輸液管理の方法、看護介入の方法 事例のアセスメント	
11 12	幼児期－急性期～慢性期の子どもと家族の看護	MCLS, アトピー性皮膚炎の事例から考える 急性症状のアセスメント、薬物療法と子どもへの与薬方法、看護介入の方法、事例のアセスメント	目標 2 : 健康障害をもつ子どもと家族が生活・療養するための看護実践についての理解を問う
13 14	幼児期－回復期の子どもと家族の看護	骨折・体動制限のある子どもの事例から考える, 子どもにとっての運動機能の意味, 体動制限が子どもと家族に与える影響, 体動制限のある子どもの看護のポイント, 看護介入の方法, 事例のアセスメント	大項目： 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 2. さまざまな状況にある子どもと家族の看護
15 16	学童期－急性期～慢性期の子どもと家族の看護	気管支喘息の事例から考える 呼吸器系の急性症状のアセスメント、子どものセルフケアとコンプライアンス、看護介入の方法、喘息の子どもを支える社会活動, 事例のアセスメント	
17 18	思春期－慢性期の子どもと家族の看護	ネフローゼ症候群の事例から考える 腎・泌尿器系の主要症状のアセスメント、薬物療法への看護、ボディイメージの変化への対応、看護介入の方法、病気の子どもと学校, 事例のアセスメント	

回	講義題目	教 科 内 容	国家試験出題基準
19 20 21	手術を受ける子どもと 家族の看護	子どもの解剖・生理学的特徴と子どもへの全身麻酔、子ども の手術の特徴、手術前後の看護、小児外科治療の現状と 看護、Day surgery、Preparation、外来における看護	
22 23	予後不良の子どもと家 族の看護	白血病、小児悪性腫瘍などの事例から考える 血液・免疫系の主要症状のアセスメント よいターミナルケアとは、家族の悲嘆過程	
24 25	障害のある子どもと家 族の看護	障害児の療育と看護、家族支援、障害児と家族を支える社 会システム、生育限界と倫理問題	
26 27 28 29	ワークショップ・子ど もの最善の利益とは？	小児看護において子どもの最善の利益をどうまもるのか、 検査・治療を受ける子どもの看護を通して考える	
30	試験		
	テキスト	「系統看護学講座 専門 22 小児看護学 2」馬場一雄、吉武香代子（医学書院）	
	参考書	「看護観察のキーポイントシリーズ[改訂版]小児Ⅰ」宮崎和子監修（中央法規出版） 「看護観察のキーポイントシリーズ[改訂版]小児Ⅱ」宮崎和子監修（中央法規出版）	

授 業 科 目 名	小児の健康障害と看護Ⅱ	担 当 教 員	木 内 妙 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	健康障害と子ども	子どもが病むということについて考える 健康障害が子どもと家族に与える影響	目標1：子どもの成長発達と健康増進のための子どもと家族への看護実践についての理解を問う
2	子どもの事故防止と安全	事故防止と安全教育, 子どもの事故対策の必要性, 子どもの事故の発生要因, 子どもの事故の実態, 事故防止の具体策・安全教育, 「健康日本21」と「健やか親子21」	大項目： 7. 子どもと家族の看護の概念
3	病気の子どもの安全を考える	病気のこどもに起こりやすい事故からの検討, 子どもの特徴から治療に関連した事故, 病気の子どもの事故から守るための看護	8. 子どもの成長と発達 9. 新生児の健康増進のための看護
4	病気の子どもと家族について考える	健康障害の子どもと家族, 家族のセルフケア機能, 家族の相互作用システム, 子どもの健康障害が起こす家族の変化, 両親の心理的動揺・一般的心理過程, きょうだい児への影響, 家族システムへの影響, 家族システムへの影響, 家族のストレス因子, 家族のアセスメントと看護介入	10. 乳児の健康増進のための看護
5			11. 幼児の健康増進のための看護
6	子どもと病気ー子どもの闘病体験と発達を促す働きかけー	病気, 病気や入院が子どもに与える影響, 病気や入院に対する子どもの反応 (心理的混乱の表出方法), 子どもの心理的混乱の程度に関する要因, 分離不安と看護の役割	12. 学童の健康増進のための看護
7	子どもへのインフォームド・コンセント, プリパレーション	病気の子どもの基本的人権, 子どもの最善の利益の保障, アドボカシー, インフォームド・コンセント, プリパレーション	13. 思春期の子どもの健康増進のための看護
8			目標2：健康障害をもつ子どもと家族が生活・療養するための看護実践についての理解を問う
9	子どものヘルスアセスメント (1)	子どものとらえ方, 子どもの健康障害と看護, 子どもが病むということ, 成長発達のアセスメント	3. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護
10	子どものヘルスアセスメント (2)	子どものとらえ方, 子どもの健康障害と看護, 子どもが病むということ, 成長発達のアセスメント	2. さまざまな状況にある子どもと家族の看護
11	子どものフィジカルアセスメント (1)	子どもの一般状態の把握, 子どものバイタルサインの測定・正常範囲と正常逸脱範囲, 病気の子どもの観察方法, 具体的観察のトレーニング	
12	子どものフィジカルアセスメント (2)	子どもの身体状況が変化しやすい理由=機能的特徴, 子どもの機能的発達の特徴 (呼吸・循環・体温・消化・水分代謝など)	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
13 14 15	小児看護学技術演習 試験	子どものフィジカルアセスメントの実際 子どもの観察（バイタルサインの測定など）、 乳児の抱き方、乳児のおむつ交換、 治療を受ける子どもの固定・抑制方法 など	
	テキスト	「系統看護学講座 専門 22 小児看護学 2」馬場一雄、吉武香代子（医学書院）	
	参考書	「看護観察のキーポイントシリーズ[改訂版]小児Ⅰ」宮崎和子監修（中央法規出版） 「看護観察のキーポイントシリーズ[改訂版]小児Ⅱ」宮崎和子監修（中央法規出版） 「ヘルスアセスメント」城生弘美他編, 木内妙子（メディカ出版）2004	

授 業 科 目 名	母性の健康障害と看護Ⅰ	担 当 教 員	早 川 有 子
対 象 学 生 (収 容 数)	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	正常妊娠・妊娠の生理	講義のガイダンス、妊娠の定義、妊娠の成立、妊娠の持続期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠の正常経過 ・ 妊婦の心理 ・ 妊娠と不快症状 ・ 妊婦の日常生活とセルフケア ・ 分娩の準備 ・ 親役割の準備 ・ 妊婦と発達危機 ・ 分娩の3要素と正常分娩 ・ 産痛のメカニズムと緩和法 ・ 産婦の心理 ・ 家族の心理 ・ 産褥期の正常経過 ・ 褥婦の心理 ・ 褥婦の日常生活とセルフケア ・ 母子関係 ・ 父子関係 ・ 褥婦および家族の発達危機 ・ 胎児の成長・発達 ・ 妊娠中・分娩中の胎児の健康状態 ・ 正常新生児の生理 ・ 新生児の成長・発達 ・ 育児技術
2	胎児の発育と発達	胎児の発育と発達について学ぶ。	
3	妊婦の看護アセスメント	妊婦とその家族の生活について学ぶ。 妊娠経過に伴って変化する妊婦のからだとこころの変化について学ぶ。	
4	妊婦の看護と保健指導	妊娠期の保健指導（健康診査・体重・動静・乳頭の手入など）とセルフケアについて学ぶ。	
5	妊娠期の健康問題とその看護	妊娠期の健康問題（マイナートラブル）とその看護について学ぶ。	
6	正常分娩	分娩の3要素、分娩の機序、分娩経過について学ぶ。	
7	産婦の看護	分娩経過に伴って変化する産婦のからだとこころの変化と看護について学ぶ。 産痛の緩和法とメカニズムとその緩和法	
8	正常産褥	産褥経過に伴って変化する褥婦のからだと心の変化と看護について学ぶ。	
9	褥婦の看護アセスメント	母子相互作用（産褥早期の母子に必要な看護）について学ぶ。	
10		母子退院後の日常生活とセルフケアについて学ぶ（母子・父子・家族関係含）。	
11	妊婦・産婦・褥婦・新生児の援助技術	妊婦健診に必要な技術・乳房ケア・授乳指導 分娩スタイル（出産体験）・妊婦体操・産褥体操	
12		出産準備教育（妊婦体験・自律訓練法）について学ぶ。	
13	新生児の看護	出生直後の新生児の生理的变化とその援助法を学ぶ。 新生児期の経過に伴って変化するからだと心の変化について学ぶ。	
14	育児支援	退院後の家庭での生活と地域で行われている育児支援について学ぶ。	
15	新生児看護に必要な援助	新生児のフィジカルアセスメントについて学ぶ。 沐浴・タッチケア・新生児の家庭での養育など	
16	事例による看護過程の展開	情報収集と分析、看護問題の抽出・計画・実施・評価	
17		試験	
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	テキスト	母性看護学各論2「医学書院」	
	参考書	授業ごとにプリントを配付し、その中で重要な参考書を紹介する。	

授 業 科 目 名	母性の健康障害と看護Ⅱ	担 当 教 員	早 川 有 子
対 象 学 生 (収 容 数)	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	ハイリスク妊娠	講義のガイダンス、ハイリスク妊娠の定義・ハイリスク因子について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流産・早産 ・ 常位胎盤早期剥離 ・ 前置胎盤 ・ 妊娠中毒症 ・ 胎児仮死 ・ 帝王切開分娩 ・ 低出生体重児 ・ 母子分離・死産 ・ 先天異常・障害をもつ新生児
2	最近の話題	最近の話題から異常妊娠・分娩・産褥・新生児について考える。	
3	妊娠期の異常と看護	妊娠中の母体の全身疾患(妊娠中毒症・妊娠貧血・常位胎盤早期剥離・前置胎盤)と看護について学ぶ。	
4			
5		妊娠期の異常(流産・早産など)と看護について学ぶ。	
6	不妊症と看護	不妊症と高度生殖医療と看護について学ぶ。	
7		母性をめぐる生命倫理について考える(代理出産・体外受精など)。	
8	分娩・産褥期の異常と看護	分娩時の異常出血(弛緩出血など)	
9		帝王切開と看護について学ぶ。	
10		胎児及び胎児附属物の異常(骨盤位・羊水・前置胎盤など)	
11			
12	新生児期の異常と看護	新生児期の異常(低出生体重児・黄疸・母子分離・胎児仮死など)の看護について学ぶ。	
13			
14	性と生殖の異常について	性と生殖の異常について考える。	
15		試験	
	テキスト	母性看護学各論2「医学書院」	
	参考書	授業ごとにプリントを配付し、その中で重要な参考文献を紹介する。	

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 特 講	担 当 教 員	高 木 夕 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 4 5 6 7	オリエンテーション グループワーク まとめ・発表	講義・演習の進め方、グループ編成・テーマ決定等 このクラスは、徹底的にグループワーク学習を行います。チームメンバー、チームリーダーの役割を果たせる学生の参加を望んでいます。 テーマ ①喫煙と健康 ②アルコールと健康 ③薬物乱用と健康 ④食事と運動と健康 ⑤結婚 ⑥離婚 ⑦妊娠と妊娠中絶 ⑧避妊 ⑨性行為感染症 ⑩不妊 ⑪拒食と過食 ⑫家庭内暴力 ⑬妊娠中毒症 まとめ・発表	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	精神の健康障害と看護Ⅰ	担 当 教 員	長 野 勝
対 象 学 生 (収 容 数)	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ～ 5	精神保健看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について説明する。精神保健法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者—看護者関係、観察のポイント等について説明する。	目標 3-1 精神医療看護の人権・倫理 A. 精神医療看護の変遷 a: 欧米における精神医療の歴史 b: 日本における精神医療の歴史 C: 精神医療における看護師の役割 B. 患者の権利 a: インフォームド・コンセント b: 行動制限 c: 隔離室の使用 C. リスクマネジメント a. 自殺・自殺企図 b. 転倒 c. 誤飲 d. 誤薬 e. 院内感染
6 ～ 8	精神状態・症状別看護援助	精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態をアセスメントし、看護援助の計画・実施に活かせるよう学習する。	目標 2-2 看護援助技法 A. 症状アセスメント a. 不安 b. 抑うつ c. 幻覚 d. 妄想 e. 強迫 f. せん妄 g. 痴呆 h. 離脱症状 B. 精神状態・問題行動と看護援助方法 a. 不安緊張状態 b. ひきこもり状態 c. 抑うつ状態 d. 躁状態 e. 幻覚妄想状態 f. 意欲減退状態 g. 不眠状態 h. 拒絶・拒否 i. 攻撃的行動 j. 操作・試し行為 k. 強迫行為
9 ～ 11	精神の健康障害と看護援助 ・統合失調症患者の看護 ・感情障害患者の看護	統合失調症の急性期、慢性期にある患者に対する援助の方法について説明する。統合失調症の精神病理、発症の背景。統合失調症の治療、 統合失調症のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、混迷、自傷行為、攻撃、離院)にある患者に対する援助の方法について説明する。 軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)および精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する。躁鬱病の精神病理、発症因子 躁鬱病の治療、	目標 2-3 精神科治療と看護【必修問題(a. うつ b. 統合失調症)】 A. 精神疾患の診断基準 a. 統合失調症 b. 気分障害 c. 神経症および心因反応 d. 人格障害 e. 物質(アルコール、薬物)関連障害 f. ストレス関連障害 g. 器質性精神疾患 h. てんかん i. 心身症
12 ～	・神経症および心因反応 ・人格障害	神経症(ヒステリー、摂食障害、不登校等)心因反応の看護援助について事例を通して概説する。 境界型人格障害、その他の人格障害	

回	講義題目	教 科 内 容	国家試験出題基準
13	・アルコール・薬物依存症	アルコール・薬物依存患者の看護，症状精神病・人格障害者の看護等について概説する	
14	・てんかん患者の看護	てんかんのさまざまな発作(大発作、小発作等)に対する看護援助及び日常生活指導について説明する。てんかんの神経学，分類，診断，治療	
～	・その他の精神疾患患者への看護	・ICU症候群：ICU・CCU等における術後管理の過程でみられる特異な精神障害について	
15		・概説する。・児童。思春期の精神障害：発達障害，学習障害，多動症，知的障害など心理的発達プロセスと発達課題について概説する。・痴呆：症候	
16	リエゾン精神科看護	性の痴呆，脳血管性痴呆，アルツハイマー病，その他の変性疾患による痴呆について概説する。	目標 1-1 精神の健康 D. リエゾン精神看護 a. 身体疾患をもつ患者の精神の健康 b. 患者・家族の精神の健康 c. 看護職者の健康
～		精神的危機が生じる医療・看護の中で精神看護的知識や技術を基盤とした助言を行い、患者—看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神看護を概説する。	
17			
18	社会復帰活動と看護	社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史的変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実際について説明する。	目標 3-2 地域精神保健 A. 精神福祉の法制度 a. 精神保健福祉法の基本的考え方 b. 精神保健福祉法による入院の形態 c. 精神保健指定医 d. ホームヘルプサービス B. 社会復帰・社会参加 a: 社会復帰施設 b: デイケア c: 小規模作業所 d: グループホーム e: 生活支援センター f: セルフヘルプグループ C. 地域生活支援の技術 a. 生活技能訓練 SST (Social Skill Training) b. 訪問看護 c. ケアマネージメント d. 看護相談面接
～		精神の健康上の問題をもつ人が，地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて概説する。	D. 生活の場と精神保健 a. 家庭(育児ノイローゼ，介護疲れ，虐待) b. 学校(不登校，いじめ，無気力) c. 職場(パワハラアウト，自殺，過労死)
19			
20	事例展開	事例(精神分裂病、うつ病事例)を用いた看護過程の展開: グループワークと発表により看護診断について学習する。	
～			
30	発表とまとめ		
	テキスト	「新体系看護学 33 精神看護学②精神障害をもつ人の看護」佐藤壹三 (メヂカルフレンド社)	
	参考書	「精神障害者のクリニカルケア」川野雅資・長野勝 (メヂカルフレンド社) 「精神看護学」田中美恵子 (医歯薬出版)	

授 業 科 目 名	精神の健康障害と看護Ⅱ	担 当 教 員	長 野 勝
対 象 学 生 (収 容 数)	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ～ 3 4 ～ 5 6 ～ 9 10 ～ 14 15	総論 精神の健康障害者への基本的援助姿勢 ストレスと適応 精神科治療と看護 まとめ	精神障害者の真のノーマライゼーションの実現がめざされるようになった。精神障害者と社会参加について概説する 患者—看護師関係：：患者-看護師関係の特徴 患者-看護師関係の目的，患者-看護師関係を成立させる要因，患者-看護師関係の発展過程について概説する。 ストレスは環境(外界)からの刺激により引き起こされる。セリエによるストレス、ストレスラー、適応について学習する。現代社会のさまざまな心の健康問題とストレスに適応していくためのウェルビーイング well-being (心身のよりよい状態) について考える。またストレスコーピング, つまりストレスに対するさまざまなコーピング法 (ストレス対処法) について概説する。ストレスに対するさまざまなコーピング法 (ストレス対処法) について概説する。 精神の健康障害に対する薬物療法を中心とした様々な治療法とその看護援助について概説する。	目標 3 精神障害者の人権を守り，地域生活を支えていくための基本的援助姿勢 目標 2-1 精神看護の基本概念 B. 精神分析モデル a:フロイトの発達論 b:転移感情 c:自我の防衛機制 目標 2-3 精神科治療と看護 B. 臨床検査 a. 脳波検査 b. 知能検査 c. 記銘力検査 d. 人格検査 C. 身体療法 a. 薬物療法:抗精神病薬の作用と副作用，抗うつ薬の作用と副作用，抗躁薬の作用と副作用，抗不安薬の作用と副作用，抗てんかん薬の作用と副作用，b. 電気けいれん療法 D. 精神療法 a. 個人精神療法 b. 集団精神療法 c. 家族精神療法 E. 活動療法，リハビリテーション療法 a. 作業療法 b. レクリエーション療法 c. 芸術療法 F. 治療環境 a. 病棟環境の整備 b. チーム医療
	テキスト	「新体系看護学 32 精神看護学①精神看護概論・精神保健」佐藤壹三 (メヂカルフレンド社) 「新体系看護学 33 精神看護学②精神障害をもつ人の看護」佐藤壹三 (メヂカルフレンド社)	
	参考書	「臨床看護医学 第 14 巻」日野原重明 (同朋舎出版) 「心を病む人の看護」坂田三允 (中央法規出版) 「こころをつなぐ看護 (精神看護学全書)」長野勝 (メヂカルフレンド社)	

授 業 科 目 名		精 神 看 護 学 特 講	担 当 教 員	長 野 勝
対 象 学 生 (収 容 数)		2	学 年	学 期
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1 ～ 2 ～ 4 ～ 5 ～ 7	PTSD 看護とストレス 心の健康障害への援助	PTSD(Post Traumatic Stress Disorder:心的外傷後ストレス障害)Ⅱに関する文献を抄読し、こころのケアについて学習する 看護の場面の事例より、労働者の危機と看護、危機状況における看護、:Burnout(もえつき)症候群、看護とストレスについて考える 障害者の事例より、心の病の理解と援助の在り方・限界を考える。		B. 精神の機能と障害 a. 意識と意識障害 b. 知能と知能障害 c. 知覚と知覚障害 d. 思考と思考障害 e. 感情と感情障害 f. 意欲と意欲障害 g. 記憶と記憶障害 h. 認知と認知障害 目標 1-1 精神の健康 C. クライシス a. 危機の概念 b. 危機介入 c. 危機と予防 d. コンサルテーション
テキスト		「新体系看護学 32 精神看護学① 精神看護概論・精神保健」佐藤壹三 (メヂカルフレンド社)		
参考書		「援助の限界と可能性とは」NABA セミナー録 (日本アノレキシア・プリミア協会) 「心の看護」長野勝 (サンルート看護研修センター)		

授 業 科 目 名	看 護 研 究 I	担 当 教 員	鹿 村 眞 理 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	看護研究の意義	看護研究の目的、看護師としてのアイデンティティの確立	
2	研究のプロセス	研究のプロセス、研究における倫理	
3	文献検索	文献検索の仕方、文献の読み方、文献カードの作成	
4	研究デザイン	概念枠組みと仮説、量的研究と質的研究	
5	研究計画書	研究計画書の書き方	
6	研究計画書	研究計画書の作成	
7	研究の方法	データ収集、集計、分析	
8	論文の構成と書き方	テーマ、はじめに、対象と方法、結果、考察、おわりに	
9	看護研究Ⅱについて	看護研究Ⅱのオリエンテーション	
10	群馬県看護学生研究発表会参加	参加、レポート作成	
～			
12		参加、レポート作成	
13	看護研究Ⅱ発表会参加		
～			
15			
	テキスト	「看護研究 step by step」黒田裕子（学研）	
	参考書		

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	担 当 教 員	村 上 隆 夫
対 象 学 生	3 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	生命倫理学の成立	生命倫理学の成立と素の背景	
2	古代哲学における生命と身体	古代エジプト・ギリシャ・キリスト教における生命観と身体観	
3	近代哲学における生命と身体	デカルトの哲学における生命観と身体観	
4	伝統的社会における死と葬送	前近代社会における死の儀礼	
5	近代社会における死と葬送	近代社会における死の儀礼	
6	疎外される身体と加工される身体	人間の身体の人間学的考察	
7	身体と人格	人格概念の形成と身体と人格の関係	
8	身体は誰のものか	脳死と臓器移植をめぐる倫理的問題	
9	人権と医療	インフォームド・コンセントをめぐる倫理的問題	
10	人間はいつから人間になるのか	妊娠中絶と新生児殺しをめぐる倫理的問題 安楽死と尊厳死をめぐる倫理的問題	
11	人間が人間でなくなるとき	生殖技術をめぐる倫理的問題	
12	子どもは誰のものか	医療関係者と患者との人間関係をめぐる倫理的問題	
13	医療関係者と患者		
14	生命倫理と正義	医療資源の配分をめぐる倫理的問題	
15	動物の生存権	生命倫理学と環境倫理学との関係について	
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名	国 際 保 健 医 療 協 力	担 当 教 員	矢 嶋 和 江
対 象 学 生	3 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ～ 2	国際協力とは	国際協力の考え方の変遷 第二次世界戦争以降の取り組みと開発思想 先進国・開発途上国の区割り 国際援助機関とその役割 開発途上国の援助ニーズにどのように応えてきたか、 各機関の役割、NGOの役割などについて概説する。 日本の国際協力の流れ 日本が受けてきた援助	基礎看護学目標 3. 1. 看護の役割と機能を支 えるしくみ G : 国際協力 a). 国際交流 b). 国際援助機関への協 力
3	看護の国際協力	国際看護の考え方 看護職の国際協力の流れ 第二次世界戦争前・戦争後の活動	
4 ～ 5	開発途上国の健康問 題	健康問題の格差 生活と環境 貧困と健康 栄養と感染症 母子保健とジェンダー リプロダクティブヘルスの視点から母子保健の 現状を理解する。 伝統的医療・民族としての慣習	
6	国際協力に求められ るもの	国際協力のイメージ 求められる能力は何か	
7	協力活動の実践例	青年海外協力隊保健師隊員の活動例(VTR) 途上国の保健問題について、問題の派生する要 因、その対策、今後の課題などについて考える。	
8	まとめ		
	テキスト	「国際看護学入門」国際看護研究会編（医学書院）	
	参考書	「世界を翔けたナースたち」JOCV看護職ネットワーク編（青年海外協力協会） 「国際保健医療協力入門」小早川隆敏（国際協力出版会） 「いのち・開発・NGO」デイビット・ワーナー（新評論社） 「もし世界が100人の村だったら」〔資料〕	

授 業 科 目 名	歯 と 健 康	担 当 教 員	小 林 圭 一
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		総論	
2		口腔・歯牙の構造と機能	《人体の構造と機能》
3		歯の役割 口腔ケアの目的	目標 1. 2
4		歯科医療とは	10 栄養摂取の機構-B.咀嚼 a
5		齲蝕	歯・口腔の構造と機能, b咀嚼
6		齲蝕予防法	の過程 C.嚥下 a 咽頭の構造と
7		歯周疾患	機能, b 食道の構造と機能, c
8		顎関節疾患	嚥下の過程
9		口腔軟組織の疾患	《疾病の成り立ちと回復の促進》
10		顔面、頸部の疾患	
11		予備	目標 3
12		看護における口腔ケア	3 栄養の摂取・吸収・代謝・排
13		〃	泄機能の障害-A.食の障害
14		地域歯科医療	c 咀嚼・嚥下機能の障害
15		予備 (レポート作成)	《社会保障制度と生活者の健康》
			目標 3
			4 保健活動-A.地域保健 b 健康日
			本 21
			《在宅看護論》
			目標 2
			1 在宅における生活支援の方法
			と技術-C.清潔 e 口腔ケア
			《成人看護学》
			目標 4
			3 栄養摂取・代謝障害を持つ患
			者への看護-A.咀嚼・嚥下障害の
			観察とアセスメント a 歯、舌、
			口腔・咽頭・喉頭の観察
	テキスト	「看護学全書 成人看護学 14 歯・口腔疾患患者の看護」(メヂカルフレンド社)	
	参考書		

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	担 当 教 員	近 藤 照 彦
対 象 学 生	1 ・ 2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	1 単 位	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	ボランティア活動とは	科目説明、履修方法、活動記録、活動範囲、単位認定などについて	
2	活動1	活動1	
2	活動2	活動2	
3	活動3	活動3	
4	講義・実習	災害活動概論と模擬災害実習 担当：矢嶋和江	
5	活動5	活動5	
6	活動6	活動6	
7	活動7	活動7	
8	活動8	活動8	
9	活動9	活動9	
10	活動10	活動10	
11	報告会	成果発表	
	テキスト	指定せず	
	参考書	大学とボランティア	